

学校関係者評価報告書

愛媛県立八幡浜高等学校 全日制

学校番号 36

評価実施日		平成30年2月22日(木)	
委員	氏名	所属等	備考
	幸田 裕司	愛媛県ネットワーク協会 メンタル・トレーナー	
	菊池 省三	八幡浜市民生児童委員協議会会長	
	元田 親平	八幡浜市立愛宕中学校校長	
	木村 謙児	みなと交流館館長	
	樋口 志保	PTA会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>今年度の最終評価について</p> <p>1 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者の期待に応えられるよう、更なる教育課程の編成を目指している。 ・アクティブ・ラーニング推進事業、学校訪問研修等を通して主体的・対話的な活動、そして深い学びへの教育の実践が効果を上げてきている。 ・生徒による授業評価、教員同士の相互参観授業の実施により、指導力の向上が図られている。 ・空き教室を利用した自習スペース等、生徒の学習環境が整ってきている。 ・教科ごとのチーム目標を設定することで、教員同士の目標に対する対話が増加し、授業研究が深化した成果が見られる。 ・満足度の高い校内研修会が実施されるとともに、校外研修会への参加者も増加しており、自己研鑽に努めようとする意識の高さが伺える。 <p>2 生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は愛媛県高校生自転車交通マナー向上対策事業の実践指定校に指定され、交通ルールの遵守や自転車交通マナーの向上に向けた様々な取組を実施し、生徒の交通安全教育を強化することができた。しかし、登下校中の軽微な自転車事故が11件発生している。幸いにも軽い怪我で済んでいるが、引き続き、交通安全に対する意識の高揚を図る必要がある。 ・えひめ国体(成年バレーボール・成年ソフトボール)へ多くの生徒がボランティアスタッフとして参加をし、関係者から高い評価を受けた。 ・部活動加入率は年度当初98%と、昨年以上に高い数字である。しかし、2年生に部活動と学習の両立で不安を抱える生徒が多くなる傾向がある。 ・文化部と体育部どちらも全国レベルでの活躍が多く見られた。 <p>3 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文武両道を目指して頑張っている生徒個々の進路実現に向けて、これまで同様に指導の充実を図るとともに、社会にしっかりと適応して活躍できる力も養ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒の進路実現に向けた更によりよい教育課程の編成を目指す。 ・アクティブ・ラーニングの持続により更に学習効果を上げ、高校の学習活動だけでなく生涯にわたってつながるものにしていく。 ・相互参観授業及び研究協議を活性化させ、教科指導力の更なる向上を目指す。 ・近隣校における一般公開授業への参加を更に促し、他校の教員の実践や教授法の情報共有を図っていく。 ・今年作成した登下校時の危険箇所マップを、来年度の新入生に早い段階で配布し、1年生の交通安全意識の高揚に努め、自転車交通事故の防止に取り組む。 ・開校日以外のヘルメットの完全着用について継続して指導する。 ・えひめ国体ボランティアスタッフの経験を生かし、地域に貢献し、地域に必要とされる高校生の育成に努める。 ・部活動後から下校までの時間を短縮し、有効活用できるように工夫する。 ・各部で、短時間で密度の濃い練習メニューを充実させる。 ・生徒、教員及び保護者に対して、進路に関わる情報提供と生徒との個別面談及び全校体制での個別指導をより充実させる。 ・インターンシップ等の地域に根差した活動及び大学等の外部機関との積極的連携により、地域や社会とつながった職業及び学問に対する意識高揚を図る。

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>4 健康・環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室の利用については、主に体調不良者が利用することもあり、悩みを抱えていても、それを相談できない生徒や保護者がいることに目を向け、相談できる場所等の確保が必要である。 ・事務課と連携し、修繕箇所の早期発見、修理が行われている。 ・教員の心身の健康に目を向け、校務処理の効率化・見直し等、事務負担の軽減に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互、生徒と教職員の日頃から相談しやすい人間関係の構築とカウンセリング体制の一層の充実を図る。 ・引き続き事務課と連携し、修繕箇所の早期発見、要望を聞いていく。 ・引き続き出退勤記録の記入を行うとともに、時間外勤務時間の短縮に向けて意識統一を図る。
<p>5 図書・情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の「PTA会報」や毎月の「PTA月報」は計画どおりに発行できている。各種研修会の案内も発信するようになった。 ・図書委員会の活発な働きにより、図書室の利用状況は良くなっている。 ・ホームページの毎日のアクセス数が昨年度より減少している。ただし、修学旅行など興味・関心のある内容は普段の倍以上の閲覧数である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も保護者や教職員の協力の下、学校行事やPTA活動ばかりでなく、研修会の案内や報告も含め、一層充実した内容で発行するように努める。 ・読書の有用性を訴え続け、様々な学びの場として、図書室の活用方法を生徒及び教員に提言していく。 ・減少しても普段のアクセス数が生徒数の倍以上であることを常に肝に銘じて、閲覧者が興味関心を持つ内容の工夫をする。迅速で充実した情報発信に努める。
<p>6 人権・同和教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に対応した人権・同和教育の推進が行われている。 ・夏期研修会や人権だよりの作成など、人権委員会が活発に活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する人権問題に対し適切な情報を提供するとともに、「部落差別解消推進法」の具現化に向けて取り組む。 ・フィールドワークなどの実践の機会を増やし、今後も積極的に生徒と活動していく。
<p>7 事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各担当分野において、条例の改正等に対応し適切な事務処理が行われている。 ・不要不急な支出を控え、適正な予算執行に努めている。 ・保健環境課と連携し、修繕箇所の早期発見、修理が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・条例改正や制度変更等の情報を他校と情報交換し、対応していく。 ・消耗品等年間使用量を把握し、計画的な支出を心掛ける。 ・引き続き保健環境課と連携し、修繕箇所の早期発見、要望を聞いていく。
<p>8 学年</p> <p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣が確立され、学校生活を楽しみながら、学習にも意欲を見せる生徒が増えている。 ・部活動との両立を目指して努力しているが、家庭学習時間の確保の点では課題が残っている。 ・類型選択や進路実現に向けて、講演会を企画・開催するなど、進路情報の提供ができた。 <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習は概ね定着してきている。学校行事や部活動、課外活動などと勉学との両立を図りながらさらに人間形成に努めていただきたい。 ・成績が伸び悩んでいる生徒や、部活動の成績、生徒同士の人間関係などに悩む生徒にも目を向け、生徒の自己実現に向けて支援していただきたい。 <p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職は目標を達成している。進学についてはホームルーム担任や教科担任の細やかな指導に加えて、学年を越えて全ての教員での指導体制が充実しており、生徒がそれに応える形で、進路実現が確かなものとなっている。 ・リーダー性の育成については、部活動や体育祭を通じて確実に伸長がみられ、今後の社会性や人間性の発達の礎となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文武両道の実践に向けて、毎日の生活をどうデザインすればよいかについて、情報を発信するとともに、それに対する考えを深化させ、実践を伴わせる。 ・家庭学習時間の確保ができる課題の出し方・効果を主とした学習指導の在り方を研究し、教科間で共有する。 ・生徒一人一人の学校生活を充実させるために、個別面談等の充実を図り、教員間の連携を密にする。 ・勉学と部活動等の両立をさらに図り、家庭との連携を密にするとともに、個々の生徒の実情を把握し、一人一人が自覚を持って目標に向かって取り組むことができるように指導していく。 ・今後もたゆまぬ努力を重ね、小さな成果の積み重ねによって大きな成果を掴めるよう指導するとともに、勉学だけではなく課外活動など様々な活動を粘り強く継続することにより、豊かな人間形成を目指していく。 ・様々な場面で一定の成果を上げており、今後も現在の教育活動を継続していく。 ・多様な生徒と向き合っていかなければならないので、指導において明確な方向性を示し、教員間で意識統一を図り、連携を密にしていく。 ・教育の原点に立ち返って、学習面だけに偏らず、行事や部活動を通して、バランスの取れた人間性の育成を目指していく。